

東久留米市立第六小学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力や漢字の定着には、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ミニテストや家庭学習の励行で、定着を図っていく。丁寧にノートが書けている児童を挙げて紹介するなどして、丁寧に文字を書くことを意識させる。 朝学習で漢字の復習を繰り返し、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字のミニテスト、学期末の漢字テストで全児童が8割を取れるようにする。(漢字テストごと)
	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くことに抵抗があり、自分の考えを書くことができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語教材を通して自分の考えを書いたり、読書の感想等で表現したりする機会を定期的に取り、自分の考えを書く方法、パターンを指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導の時間を計画的に設定し、週の予定表に明記する。(2単元に1回)
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地図や資料から差異や特徴などの情報を正しく読み取ることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図や資料を黒板やテレビなどだけでなくタブレット等でも提示し、視覚的に理解を促したり、操作しながら理解を深めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図や資料を扱う授業では、毎回地図や資料の読み取り方を確認する。 ワークテストやワークシート、eライブラリ等で資料活用の技能を確認する。(テストごと)
	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住んでいる身近な地域の特色ある地形や土地利用の様子などの理解に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動や発表の機会を多く取り入れたり、学習の資料を充実させたりすることで、より意欲的に活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の地域や市内の土地・施設等の見学をできる限り設定する。(学期に1度程度) 地域に関わる資料を毎時間活用し、資料活用の技能を確認する。(授業ごと)
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数量感覚を養う機会や経験に個人差が見られる。 量の単位や換算に課題がある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を操作する活動や視覚的に捉えることができる掲示物などを多く取り入れて指導するとともに、図や数直線をかいて考える機会を多くする。 朝学習でeライブラリを活用し、児童の実態に合った効果的な問題を選んで繰り返し復習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークテストやワークシート等で、図が正しくかけているか技能を確認する。(テストごと、正しくかける児童が80%) ワークテストやeライブラリ確認テストで80%以上の正解。
	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算(加法、減法、乗法)の速さ、正確さに個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 週1回朝学習で、eライブラリを活用し、基礎計算(主に繰り返し下がり減法や九九)を繰り返し練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークテストやeライブラリ確認テスト等で、計算をすることができているかを確認する。(テストごと、正しく計算をすることができる児童が80%)
理科	<ul style="list-style-type: none"> 生物や植物に対する興味・関心や、自然と触れ合う経験・知識に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ実物に触れられるようにする。難しい場面は画像などを活用して目で見て確かめられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物や動画などを活用した授業を実施する。(学期に3回以上)
	<ul style="list-style-type: none"> 科学的な用語や概念が十分身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想・仮説、結果の整理、考察という学習の流れを定着させる。また、それぞれの場面で理科の用語を使いながら思考を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学的な言葉や概念が身に付いているか確認する時間を単元終末に設ける。(単元ごとに1回)

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように演奏したいか思いをもって取り組めない児童がいる。 ・楽譜の読み方が定着していない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすいワークシートを用意し、いろいろな考えを提示して、その中から選べるようにする。 ・階名の手本を提示したり、階名を唱えて覚えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートで思いや考えを確認し、9割程度の児童が思いをもって演奏できるようにする。 ・定期的に階名テストを行い、9割程度の児童が確実に楽譜を読めるようにする。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を十分に理解しないまま活動してしまう児童がいる。 ・基本的な技能に個人差があり、思い通りに表現するまでに時間を要する児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップを設けて課題を丁寧に理解させる。 ・必要に応じて個別指導を行う。 ・班で準備等の役割分担をさせ、学習に期待をもったり協したりするよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをアイディアメモや設計図としてまとめ、活用させる。(1題材につき1回以上) ・机間指導で個別に声を掛けて確認する。 ・授業開始時に、学習に使う用具の丁寧な説明や班内の役割分担を行う。(毎週)
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の課題を把握し、意欲的に学習に取り組むことができない児童がいる。 ・友達やチームの良い点を見付け合い、励まし合って活動をしようとする態度に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元において学習カードを活用し、自分に合った課題を解決しながら運動ができるようにする。 ・互いに見合ったり、教え合い高め合ったりする機会を意図的に設定する。 ・ルールを守り、友達と教え合ったり、力を合わせたりできるようにする。 ・ゲームでは、チームの作戦や話し合いの時間を設け、協力して進められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全児童が自分に合った課題を設定しながら運動ができる。 ・互いに見合ったり、教え合い高め合ったりする機会を取り入れる。(毎単元) ・学習カードに自己評価欄を作り、自己評価をさせ、行動観察を行う。(毎単元)
徳特別の教科道	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな考え方に触れ、自分のこととしてより深く考えられるようにしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問を工夫し、ペアやグループでの話合いを取り入れるとともに、授業のまとめに自分の生活に立ち戻って考える時間を必ず設ける。 ・振り返りの時間を毎時間設け、必ず自分の生活に立ち戻って考える時間をとり、ワークシートや児童の発言などから変容を見取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの時間を毎時間設ける。 ・ワークシートに記述した内容から変容を見取るとともに、日頃の生活の様子からも実践意欲等を見取る。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な挨拶や単語がまだ身に付いていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が挨拶や単語、簡単な表現を発音することに意欲や自信をもてるよう、歌やゲームなど楽しんでできる活動を工夫し、繰り返し声に出させて練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員とも会話をする活動を取り入れ、全児童が挨拶や単語、簡単な表現を使ってコミュニケーションを図ることができているか確認する。(単元ごとに2回以上)
の総合的な学習	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に考えたり、表現したりする力に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を多く取り入れ、実感を伴って意欲的に活動できるようにする。 ・単元ごとに一つ以上の体験活動を取り入れ、多様な表現方法(新聞、劇、ポスターなど)を工夫し、学年合同で発表の場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な表現方法による発表になったか確認する。 ・全児童が発表の仕方を理解し、調べたことが聞き手に分かるように工夫して発表をすることができる。(学期に1回以上)